



1 建学の精神 「敬・実・和」 まごころをもって 他の人を敬愛し 和をはかる

2 教育目標

「仲良く・正しく・強く・朗らか」な人間性豊かな幼児を育てる

- たくましく 心身共に健康で、元気な明るい子ども
- かしこく よく見、よく聞き、よく考える子ども
- だれとでもなかよく みんなとなかよく、のびのびと遊ぶ子ども
- まっすぐなところで きまりを守り、進んでよいことをする子ども



3 本年度重点的に取り組む目標・計画

笑顔いっぱい たかだま幼稚園
～子どもの笑顔を真ん中に～

子どもたちの笑顔いっぱいの幼稚園にするために

- ①家庭と力を合わせ短大と連携して
- ②伸び伸びとした自由保育を中心に
- ③園児一人ひとりみんなを大切に質の高い教育を実践します。

4 評価項目の達成及び取組状況

	評価項目	評価	取組状況
1	笑顔を創る教育の実践 ◇関連プロジェクト項目： 1・4・5・11	A	① 子どもたちの笑顔を創るために、「遊びの入り口」となる「好奇心」、「遊び込む」プロセスの中での「試行錯誤」と「心の成長」、「遊びきる」ことによる「達成感」の3つを大切にしたいのびのびとした遊びを中心とする教育課程を実践してきた。 ② 羽陽学園短期大学との連携を昨年度以上に図ることができ、園児に豊かで意義ある活動を多種にわたって経験させることができた。 ③ 例年の活動に加えて、今年度は天童市健康課の栄養士による食育講座やクロネコヤマトと天童警察署交通課による安全教室を開催することができて有意義であった。また、今年度よりリゴラサッカー教室を年中学年対象に3回開催できた。年長児のモンテサッカー教室を見ている年中児にとって満足度の高い活動となった。
2	笑顔を真ん中にした 連携と協力 ◇関連プロジェクト項目： 2・3・6・7・8・9・12	A	① 園での様子をこまめに家庭に伝えるよう心がけながら、家庭と一緒に温かい関係性の中で子どもたちの教育にあたるように努めてきた。各家庭より非常に厚いご協力いただき、垣根を低くして良好な関係性の中で子どもたちの笑顔のために力を合わせることできたと考える。また、場面を捉えて保護者のみなさんが自由に参観できる機会を増やすことができた。 ②施設利用を含め羽陽短大との連携を深く幅広く持つことができた。 1) フィンガーボディーペインティングにつながる造形活動 ＊造形遊び（花田先生・城山先生・短大生） 年少・年中・年長 ＊土粘土遊び（花田先生・城山先生・短大生） 年中 ＊フィンガーボディーペインティング （花田先生・城山先生・短大生） 年中・年長 2) 水鉄砲遊び（高桑先生・短大生） 満三・年少・年中・年長 3) 運動遊び（小田先生・短大生） 年長・年中 4) 短大生と遊ぼう（渡辺聡先生・短大生） 年長

			<p>5) 荒明先生及び短大生との交わり（泥だんご遊び等）</p> <p>6) 園児理解研修会（年3回）（渡辺聡先生） 職員</p> <p>③ 昨年度に引き続き高揃小学校1年生と年長園児の交流を持つことができた。今年度は昨年度に年長学年で交流を経験した現小学1年生が楽しみにして交流活動を計画して年長児を迎えてくれており、年度を超えてつながりのある有意義な幼・小接続の交流活動となった。</p>
3	<p>笑顔を支える環境づくり</p> <p>◇関連アンケート項目： 5・6・10・11</p>	B	<p>① 昨年度に引き続き羽陽短大の渡辺聡教授をスーパーバイザーに迎え、園児理解研修会を年3回行った。専門的な見地からのよりよい園児への対応を全職員で学び、実践に活かすことができ、非常に有意義であった。また、今年度も全職員が外部研修を複数回受講できるよう計画し、少しでも「職員こそがよき環境」となれるためのスキルアップに努めた。</p> <p>② 自然豊かな広い園庭は依然として子どもたちが大好きなのびのびとした遊びや活動の場となっており、これを十分に活用した保育を実践してきた。</p> <p>③ 今年度は特にネコの糞害が多発した。対応策を工夫してきたが、十分に防止するには至らず大変ご迷惑をおかけしてしまった。</p>

評価（A：十分に成果あり B：成果あり C：あまり成果なし D：成果なし）

5 総合的な評価結果

評価	理由
A	<p>園評価のためのアンケートでは、前向きで建設的な意見・要望を含めたくさんの温かなコメントをお寄せいただき、保護者アンケート、職員アンケート共に今年度も高い評価をいただくことができた。また、子どもたちの園生活に目を移しても、あるときは好奇心いっぱい、あるときは試行錯誤を繰り返しながら粘り強く、ある時は仲間と力を合わせ、あるときは思い切り喜びや悔しさを表現しながら、笑顔いっぱいに園生活を楽しみ日々成長している子どもたちの姿を見ることができた。これらのことから、家庭と園の間に子どもの笑顔を真ん中にした温かな関係性が築かれ、これを土台として重点目標である子どもたちの笑顔いっぱいの園づくりが十分になされていると考え、総合評価をAとしたものである。</p> <p>来年度からは幼保連携型認定こども園に移行し、園運営もこれまでと全く同じというわけにはいなくなるだろうと考える。しかし、これまで築いてきた園と家庭との温かな関係を土台として、のびのびとした遊びの中で子どもたちを伸ばし育てていく「たかだま幼稚園」としての良さ気風を大切に、心新たに更に子どもたちの笑顔いっぱいの園づくりに精進していきたい。</p>

評価（A：十分に成果あり B：成果あり C：あまり成果なし D：成果なし）

6 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	認定こども園としての教育・保育の充実	<p>これまでののびのびした教育・保育の気風を継続し、次のことを実践していく。</p> <p>① 「遊びの入り口」となる「好奇心」、「遊び込む」プロセスの中での「試行錯誤」、「遊びきる」ことによる「達成感」を大切にした「のびのびとした遊びからの学び」を中心とする教育・保育の実践。</p> <p>② 子どもたちの取り組みを勇気づける「温かい保育」の実践。</p> <p>③ 羽陽学園短期大学と連携し、大いに力を借りた教育・保育の充実。</p>
2	認定こども園としての安全で温かい教育・保育環境の整備と充実	<p>① 新園舎の良さを十分生かした教育・保育の環境作り。</p> <p>② 安全で安心して任せられる保育環境の整備。</p> <p>③ 職員こそが子どもたちにとって最高の環境であるための研修と実践。</p> <p>④ 園と家庭が温かい関係性の中で子どもたちの教育・保育にあたる関係作り。</p>
3	小学校との連携の推進	2年間続いた高揃小学校との交流を継続し充実させていく。

7 学校関係者評価委員の評価

◇評価者 花田嘉雄 評価委員（羽陽学園短期大学教授）

① 評価できる点

- ・笑顔いっぱいいたかだま幼稚園～子どもの笑顔を真ん中に～という目標の通り、自由保育を中心に子ども主体の伸び伸びとした教育を実践されている点が高く評価できます。今年度も喜怒哀楽のある朗らかな子ども達の姿が見られ、毎日子ども達の元気な声が短大まで聞こえてきました。また、造形教室で関わらせていただいておりますが、前向きに活動に取り組む子どもの姿や積極的に自分の思いを発言する子どもの姿がたくさん見られます。自主性が育っており、「園児一人ひとりを大切にした質の高い教育」が実践されていることが窺われます。また、「伸び伸びとした自由保育を中心に」した取組みを通して、子どもの自己充実感や探求心が育まれていると感じます。
- ・保護者アンケートでは、子どもの満足度、子どもの笑顔を真ん中にした家庭との連携や悩み相談に関する項目が非常に高く、評価できます。保護者から寄せられた多数の声からも窺われますが、担任だけでなく園の全先生方と保護者との間に子どもを中心とした温かい信頼関係が築かれており、非常に素晴らしいと思います。職員アンケートでもこれらの項目がほぼ満点であり、一人一人の先生方が最高の人的環境として責任感と愛情をもって、「家庭と力を合わせ」た教育を行っていることが窺われます。

② 改善が必要と思われる点

- ・PTA 役員選出や行事、その他の要望に対して丁寧に検討し、可能な範囲で対応されていますので、今後も保護者からの声を大切に負担のない範囲で改善していただけたらと思います。

③ その他

- ・毎年、実習では大変お世話になり、感謝しております。先生方の優しく丁寧なご指導と素直で朗らかな子ども達のおかげで、充実した実習になっております。また、本学との連携の幅も年々広がっており、学生にとって貴重な体験をさせていただいております。今後ともよろしく願いいたします。
- ・来年度は認定こども園として様々な環境が新しくなり、新鮮さと同時に手探りの年になるかと思えます。職員の皆様のご健康のもと、ますます笑顔いっぱいのいたかだま幼稚園になるようお祈り申し上げます。

◇評価者 矢口祥子 評価委員（たかだま幼稚園 PTA 会長）

今年度も保護者アンケートでは、園の運営や職員の皆様に対する感謝の声や温かいご意見、高い評価が大多数となっており、大変嬉しく思っております。職員の皆様は、保育活動をするにあたり最善といえる設備環境ではない中「職員こそがよき環境」となってくださっているからこそ、子供たちも保護者も安心して園に通うことが出来ているのだと思います。

職員アンケートを見ると、「地域や保護者の声に耳を傾けている」「子どもたちは園生活が楽しいと感じている」「子どもたちを理解し責任をもって仕事にあたっている」「子供や親の悩みや相談に親身に応じている」「子どもの笑顔を育てる幼稚園になっている」「子どもの笑顔を真ん中にして家庭と園が力を合わせる幼稚園になっている」の項目において、全職員の皆様が「あてはまる」と回答されております。職員の皆様がそのような意識と行動で保育にあたってくださっていること、保護者としても大変ありがたく心より感謝申し上げます。

保護者から寄せられた意見や要望に対しても、園と家庭にとって最善となるようご検討いただけますと幸いです。

羽陽学園短期大学や外部の皆様のお力もあり、普段家庭では経験できないことを園で経験できるということは、この時期の子供にとって大変良い影響があると思います。ぜひ来年度も継続してこのような活動を取り入れていただきたいと思います。

来年度は認定こども園へ移行し、環境が大きく変わることに子供たちや保護者は期待と不安があるかと思えます。園と家庭との連携の姿勢や、たかだま幼稚園の素晴らしい部分はそのまま引き継がれていくことを願っております。

◇評価者 石川貴之 評価委員（たかだま幼稚園 PTA 副会長）

今年度は、前年度よりさらにコロナ等感染症での制限が緩和され、数多くの行事や参観の機会により園との距離を身近に感じる事の出来た1年となりました。保護者アンケートを拝見し、また普段保護者の方々と関わる中で、先生方の子どもたちへの関わり方について、高い評価や感謝の声が多く見られました。子どもたちの様子として、「安心して過ごせる」「楽しく過ごせる」との記載が多くありました。この二つが子どもたちが日々を過ごす中で一番大切なことであると同時に、実現することがとても難しいものであると思います。

今回保護者アンケートや日々の声で数多くそのことが聞かれたのは、普段先生方が子どもたちの心に寄り添い、共に笑い合い、時には叱っていただきながら過ごしてきてくださった日々の結果であると感じております。先生方がしっかりと目を向け関わって下さっているからこそ、子どもたちの不安や変化にも真っ先に気付いてこられたこと、そして保護者とのコミュニケーションを迅速に取って対応してこられたことが、今回の評価に繋がっているのだと感じます。

子どもたち一人一人の成長を心から喜んで下さる姿に、感謝の思いしかありません。来年度からはこども園になり、人数も環境も全てが変化します。そのことで少なからず先生方も保護者の方々も、不安に思うことがあるものかと思えます。

たかだま幼稚園がこれまで築きあげてこられた笑顔いっぱいの暖かい雰囲気、先生方や保護者が手を取り合いながら、今後も末永く続けていくことを、心より願っております

◇評価者 加藤 誠 評価委員（たかだま幼稚園 PTA 副会長）

令和6年度の幼稚園評価資料（保護者アンケート）を拝見し、（1）子どもたちが喜んで幼稚園に通っている、（4）子どもたちは園生活を楽しんでいるの回答ですべての保護者があてはまる・ややあてはまるとなっている点は先生方の日々の取り組みの成果であると感じます。

また、保護者アンケートと職員間アンケートの内容に大きな差異がない点も、先生方の保育に対する考え方が保護者にきちんと伝わっていると感じます。

唯一違う点である施設・設備の面は先生方がどうしたらよりよい保育ができるかを考えていただいている表れであり、4月から新しい園舎に変わることで少しずつ改善していく部分なのかなと思います。

今年度は、例年の活動に加え様々な新しい取り組みを実施していただき親子共に感謝しております。今後も保護者からの意見等、多々あるかと思いますが、先生方の体調に無理のない範囲で検討していただけたらと思います。

来年度から、認定こども園に移行することで今まで以上に大変な部分もあるかと思いますが、笑顔いっぱいの園づくりにPTA・保護者たちも少しでも協力していけたらと思います。